

## コロナ禍における皆様の現状について（要旨まとめ）

（順不同、敬称略）

伊藤 久美子	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナによる影響で、飲食店の利用ができないので困っている。テイクアウトではなかなか「飲みケーション」ができず、慰労会なども行う事ができず親睦がはかれていない。</li><li>・社内の会議もリモートで行ったりはしているが、表情や話のニュアンスが読み取れず、形式的な会議しかできていない。</li><li>・緊急事態宣言中は時短や週休を増やすなどの対策は行い、解除後は平常通りの営業にもどしたが、お客様とのサービス低下につながってしまった。</li><li>・コロナワクチンの予約に、結構手間取っているのが現状で、なかなか予約できず、堺市のオンラインから予約を取りにいても、年配の方々は難しくできないと、弊社を頼ってくる人が多かった。自身も予約を取るのに、かかりつけでない病院のキャンセル待ちから、なんとか予約でき、2回接種完了となった。</li></ul>
太田 佳世	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナの影響で子どもたちや大人のコミュニティが減ってきており孤立化してしまっている。子ども食堂も以前は多くの子どもに向けて様々な体験ができる企画や食事を通してのコミュニティづくりをしてきたが、現在は開催できていない。現在は感染対策をしたうえで、少人数で遊びの場や個別対応での学習支援に取り組んでいる。</li><li>・コロナ対策として、ひとり親世帯への支援強化を行っている。食材や文房具など、その家庭が必要としている物を個別に配布、配送している。その際に子育てや家庭の悩みなど時間を取り、話を聴いている。</li></ul>
金澤 正巳	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の催しが中止となったままで顔を合わす機会が減り、関係が希薄になってきている。</li><li>・外出を控えることによって、テイクアウトや宅配を利用することが増えて生活スタイルが変わってきている。</li><li>・コロナ禍により会社ではテレワークや電子化が進み、それらによって様々な無駄が解消された部分もあると思っている。コロナ禍が解消された後もこうした取り組みが続けられたらいいと考えている。</li><li>・コロナの感染が拡大し、何をしてもワクチンを打たないとはいじめられない。早くみんなが2回ワクチンを打てるようになればいいと思っている。</li></ul>
澤本 美奈子	<ul style="list-style-type: none"><li>・ワクチンを先行接種できる市指定施設の従事者ですので、施設従事者証明書を受け取ったうえでワクチン接種の予約をしようとしたが、ワクチン不足だったのか、集団接種会場もかかりつけ医も予約できなかった。証明書を出すなら先行接種枠のワクチンを確保しておいてほしかった。</li><li>・緊急事態宣言が出て店はどこも開いているので、子どもを預けて保護者は働きに出ている。そのため学童の現場はこれまでと変わりなく動いている。</li><li>・夏休みの間朝7時から公園でラジオ体操をしている。みんな元気で保護者や年配の方まで参加してくれている。</li></ul>
静 又三	<ul style="list-style-type: none"><li>・堺市から情報提供を受けた新型コロナウイルス感染症の情報は、地区内で掲示板等に貼り出して共有することで、コロナ対策を行っている。</li><li>・福田地区では防災無線が聞こえないため、青パトを利用して新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の啓発を行っている。</li></ul>
中辻 さつ子	<ul style="list-style-type: none"><li>・コロナ禍で積極的な活動ができない状況である。ボランティア活動をしている「ふれあい喫茶」</li></ul>

## コロナ禍における皆様の現状について（要旨まとめ）

	<p>の活動にも思い入れはあるが、活動する側にとっても集まってくれる地域の人達にとっても安心できる状況にならないと再開することはできない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者の安否確認のための訪問活動だけは月に100件程度継続している。人と会話をする機会が減っているため、訪問時に少し言葉を交わすだけでも高齢者からは喜んでもらっている。</li> <li>・コロナ禍において足腰が弱り骨折する高齢者が増えている。認知症が進み施設入所になる方も出ている。堺市においてもコッカラ体操など動画配信企画を行っているがあまり広がっていない。地域で安心して活動が再開できるまでデイサービスなど通所サービスを進めているのが現実である。地域活動からコロナ感染が出ることがないように充分に注意が必要。</li> </ul>
<p>藤田 浩子</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育従事者であるがワクチン予約がなかなか取れずに困った。</li> <li>・子ども達の活動時も、可能な限り距離を取れるような工夫をしている。</li> <li>・手で触れそうな所は、日に何度も消毒をしている。</li> <li>・給食時には机上シールドを設置し、飛沫防止と隣席幼児の食具等に触れないよう留意している。</li> <li>・プール禁止となっているが、できないからしない、で終わらせず気持ちを発散できる遊びを考えて提供している。</li> <li>・緊急事態宣言等が発令されると堺市の図書館が完全に閉館することがとても困る。</li> <li>・府外への帰省を自粛している。</li> </ul>
<p>松居 勇</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活については、職住近接なので交通機関等の利用もほぼなく多人数との接触も少なく、徒歩圏内で生活が完結しており特段の不自由はしていない。オンラインやビデオ通話等を活用できる環境なので、親族・知人ともさほど疎遠になっている実感はなく、窮屈はしていない。</li> <li>・プライベートな問題は抱えていないが、人との交流等を促進していくボランティア推進の立場としては、苦慮することが多い。不自由をしている人たちに向けた何らかの取り組み（サポート）をするために、対象者とつながりたいと思うが、どうすればいいかわからない。</li> </ul> <p>学生たちは活動しようにも、大学による活動制限の影響が大きく、本来は自主的な気持ちで行えるはずのボランティア活動に大胆に踏み出すことができず、もどかしい。</p>
<p>森田 裕之</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・仕事上で直接のコミュニケーションが不足している。職場での会議はオンライン化したことによって無駄な時間が省ける面でメリットもあるが、学生や研究者間での研究内容のディスカッションなど、センシティブな内容を含むものは直接対面での議論の場が非常に重要であると考えている。それは、お互いの内容に対する理解のレベルを共通化させないと些細な点で食い違うことがあり、最終的に大きな誤解などにつながる危険性があるからである。コミュニケーションツールなども様々に利用可能になっているとはいえ、それではカバーしきれない。</li> </ul>
<p>山本 章雄</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在、大学（神戸教育短期大学）に勤務しており、緊急事態宣言発出（感染予防対策指示）などの影響を受け、「対面授業」ができない事態が発生し「教育の質」の維持に苦慮している。</li> <li>・スポーツ団体（日本バレーボール協会）の運営にも携わっており、「競技会事業（大会）」「運営事業（会議）」が行えない事態が発生し「スポーツ振興・強化維持」に苦慮している。</li> <li>・それぞれの活動の礎となるのは「日常における個人的人間関係」であることから、これを育む</li> </ul>

## コロナ禍における皆様の現状について（要旨まとめ）

	<p>活動（面談・食事・飲食など）を通常行っているが、コロナ禍の影響を受け実施できないことが最大の悩みである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍の今後の推移が見通せず、さまざまな事柄（私的・公的）の計画（事業計画・予算計画）が立てられず困っている。</li> </ul>
小倉 弓果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緊急事態宣言が出されるたびに大学の授業がオンラインになり、数か月続くので、勉強へのモチベーションが下がる。また、対面のほうが先生方が話している時の雰囲気も伝わり、相互コミュニケーションがとりやすいと思うので、科目にもよるがオンライン授業での授業の質が十分でないように感じる。</li> <li>・市の図書館が緊急事態宣言中閉館になってしまい、普段よりも読書にかけられる時間がとれやすかったにもかかわらず、利用できなかった。本を購入して過ごしていたが、無料で多くの本を読めるサービスは貴重だと感じた。</li> </ul>
貝谷 理穂子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学の授業がなかった期間は、一人暮らしのためずっと一人で家におり、鬱になりかけた。</li> <li>・最近とても暑くて、マスクをつけ続けるのがつらい。</li> <li>・感染対策として、外食しないことや手洗い・マスクの徹底、できるだけ人と距離を開けるなどしている。</li> </ul>
桂 恵輔	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マスクや消毒といった基本的な感染予防を行っている。</li> <li>・大学やバイト、買い出しといった必要な外出以外はなるべくしないようにしている。</li> <li>・電車に乗って大阪市に行くなどのリスクのある行動はとらないようにしている。</li> </ul>
神崎 隆之介	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在塾の講師をしており、塾の生徒や他の講師の方にコロナウイルスをうつしてしまう可能性が高いことや、私がコロナに感染してしまうと塾を一定期間閉鎖しなくてはいけなくなるなどのことから、大学に通う際や日用品を買いに行く際以外は基本的に家にいるようにしている。</li> <li>・対面の授業とオンラインを並行して行っている授業では極力オンライン授業を受けるようにするなどコロナウイルスに感染する確率を低くするように心がけている。さらに、自転車で通学するようにするなどできるだけ密になる場所を避けるようにもしている。</li> </ul>
高田 彩加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナによる影響であまり大学に通う機会がない。（緊急事態宣言やまん延防止措置など、政府や自治体の方針が変わるたびに、オンライン授業になったり対面授業になったりするのが大変。小中高校生は通えているのに大学生だけ学びの機会が減っているような気がする。）</li> <li>・周りの友人でアルバイトを解雇になったり、働いていた店そのものがなくなってしまったりしている人がいる。（特に飲食店関係）</li> <li>・コロナ対策として大学以外の用事で県外に出ないようにしている。</li> <li>・普段行っているボランティア（子ども食堂）では、感染対策として会食はせずにお弁当を配布している。子ども食堂だが、子どもと触れ合う機会はほとんどない。こういう時だからこそ、子ども食堂などを必要としている人も多いのではと思うが、なかなかそういった方々とつながる機会がない。子ども食堂だけでなく、何かしらの支援を必要としている人に支援の情報が届いているのかが疑問に思う。</li> </ul>
陳代 修平	<p>現在は休学中の身なので、学生時代のようにオンライン一辺倒ではない日々を過ごしていて、バイトもインターン（どちらもボランティアやまちづくりに関わる業務を扱っている。）も日常的にオンラインと対面をしっかりと使い分けて動いている。</p>

## コロナ禍における皆様の現状について（要旨まとめ）

	<p>・オンラインの良さ</p> <p>①旅費などの心配がないため遠隔地のイベントに出席しやすく、大阪以外の地域の情報を得やすい。他の地域の良い事例を仕入れて自分たちの活動に生かしやすい環境が整った。</p> <p>②じっくり話し込みやすいため、議題が整理されていたり会議内の役割分担が明確になっているような整理整頓された会議が進めやすい（自由な対話からアイデアを生み出していくような会議には、自由な対話や参加者同士の細かい会話がオンラインでは抑制されやすいため、圧倒的に不向きなことがわかった。）。同様に講演会など、進め方が一方通行のイベントもかなりしやすい。</p> <p>・対面の良さ</p> <p>①そこに行く目的以外の刺激や情報を得られる。実際に行ったからには、目的以外のお話もするし、行った場所の周辺を歩いたり、ご飯を食べたりもする。こういう経験は対面でしか得られないし、知っているかどうかによって、まちで進めるプロジェクトの進め具合が全然違うと思う。</p> <p>②会議中でも、細かい会話（議論が白熱している様子をちょっと俯瞰的に見て、隣の人どう思う？って少し話したり）ができるので、そこから新しいアイデアが出たり、核心をついた意見が出やすい。アイデア出しや、ワークショップでは対面でやるのが必須かと思う。</p> <p>大学やバイト、インターンでやっていることは、全て何か大きな目標があって長期的に進めていくものが多く、その時の状況に合わせてやり方を変えるだけなので、コロナ禍でもあまり停滞感を感じていない。</p> <p>できないからしないでは終わらせないのがコロナ禍では大事だと思った。代わりに何ができるか考えて実行するのが大事だと思う。世界中みんなが何もできていないというわけではないので、成功事例を知ってそこから何を吸収できるかを考えて実行していくのが大事。その結果、コロナによる影響を受けて不自由をしている人の助けになれたらいいなと思う。</p> <p>メディアがよくやるような不安をあおるよう報道をしている今の啓発方法はよくないと思う。</p> <p>いまみんなが知りたいのは、こうなったときにはどうしたらいいのかという情報だと思う。大きな地震が起きた時にここにいけば配給がありますという情報が流れるように、生活費にこまったらこの相談窓口へ相談してくださいとか、発熱があるときはここへ電話してくださいという情報が、いまニーズがあるのではないか。「思いやる心」があるからマスクもするし、ウイルスを人にうつさないようにしようと思ったり、今不自由している人を助け合おうと思えるはずなので、そういう心が芽生えたり意識できる取り組みが大学でもできたらいいなと思った。</p>
廣幡 亮太郎	<p>大学の状況について</p> <p>・授業については私の授業は対面での実施はほぼない形で行われており、大学全体としても半分もない様な状況であると認識している。また、その影響により、なかなか学友と会える機会も減りそれに合わせて LINE などの頻度も落ちており関係がどんどん薄くなっている。</p> <p>・課外活動については書類申請をすれば対面での活動が実施できるものの、対面活動を実施していた時ほどの勢いはなく、部活動の廃部も起きている様な状況。</p> <p>アルバイトの状況について</p> <p>・コロナ禍期間に一度アルバイトをクビにされたが、掛け持ちしていたので特に深刻な影響は受けなかった。友人曰く小規模な飲食店は打撃を受けているとのこと。</p>

## コロナ禍における皆様の現状について（要旨まとめ）

	<p>・コロナ禍において、会議も含めて全てがオンライン化したことにより家から出なくなった結果、運動不足が目立つ様になった。また、オンラインでの会議はなかなか思うように進まないのが常で非常に難しいなと感じた。</p> <p>公務員の就職活動について</p> <p>・職場見学の機会としてのインターンシップがオンライン化したせいで仕事に関するイメージが従来の比にならないくらいわからなくなっている。</p> <p>・行政機関（特に地方自治体：今回国家では一部の省庁では完全オンライン、国家総合職の第1クールはオンライン化）は対面での面接がメインであり民間就職とは違いオンライン面接ではないため、民間より遅れているとも言える。</p>
<p>三渡 大介</p>	<p>コロナ禍に置いて、部活動などの課外活動を実施するのがなかなか難しい状況になっており、焦りを覚える環境である。しかし、その代わりに自分ひとりですることに取り組む時間が増え、そこにおいてはポジティブな状況ではある。</p>
<p>山口 睦季</p>	<p>・基本的な対策（手洗い、うがい、マスクの着用、アルコール消毒の徹底、密を避けるなど）を徹底して行っている。また、飲食店で蓋がない状態で置かれているカトラリーは洗い立ての新しいものに替えてもらう、それが不可能なら自分の除菌グッズで除菌してから使う、飲食や体育など一定時間外したマスクは着用せず新しいものに交換する、可能な限り人混みを避けて飲食を行うようにするなどしている。</p> <p>・イベントやボランティア活動に参加できず晴れない気持ちでいる。しかし今は欲を我慢して対策に一番重きを置いた、感染対策を優先した生活を送るべきだと考えている。</p>
<p>米田 啓吾</p>	<p>・コロナによる影響で、アルバイトができず、生活費を稼げず生活に困っている知人がいる。</p> <p>・コロナの影響で、対面でのボランティア活動、サークル活動が制限され、活動の停滞・縮小を余儀なくされた。</p> <p>・対面での活動を避けるために、サークル活動、アルバイトでのミーティングはオンラインツールを用いるようになった。</p> <p>・オンラインツールを用いることで今まで参加できなかった人が参加できるようになりコミュニティが広がった。</p> <p>・オンライン授業が中心となり、自宅での生活時間が増え、時間的に余裕ができた。</p> <p>・学内のキャリアセンターなどに進路の十分な相談ができない、またキャリアの見通しが立てにくい。</p> <p>・最近高校生の間で感染が増えているが、職場（教育従事者）の上司が副作用を鑑みてワクチン接種ができず困っている。</p> <p>・他にも、連休が確保できないためにワクチンを打てないという知人も複数人いる。</p> <p>・大学に入ったとしてもオンライン授業が続くために、部活・サークル等の課外活動ができない、対面授業ができないためにまともな学習ができないため、大学に行く意義を感じられないと言う生徒もいる。</p> <p>・オンラインでの社外会議・研修が増え、オンラインでの発表、ディスカッションする機会が増えたが、聞き手の表情、反応が読み取りづらいため困る。</p> <p>・地域の祭りが中止となった。地域交流の機会が減っている。</p>

## コロナ禍における皆様の現状について（要旨まとめ）

脇田 利奈	<ul style="list-style-type: none"><li>・私自身は毎日大学に通い研究に取り組むことができおり、学業に影響はでていない。</li><li>・大学生と地域の方の交流の機会が減っているように感じる。（学祭やボランティアなどの中止）</li><li>・大学周辺での外食の回数が減っている。</li><li>・コロナ禍が長引き、人と会うのが億劫になりつつある。</li></ul> <p>コロナ自粛が明けたら〇〇したいという欲も減ってきており、自粛が終わったとしても、コロナ以前のように、飲食店や公共の施設を利用しないかもしれない。</p>
-------	---

提出された意見は適宜整理、要約しています。